

576.9

64-1

子檢四一二九号

三十五

矢田部藤吉作歌

廣島市歌

高等小學校及
尋常小學校
児立重甲

共一

學習院教授

納所辨次郎作曲

消

廣島市歌
昭和四十七年七月十四日
唱歌十生徒用

下唱 2/3

1970. 9. 1

104538

廣島市歌

矢田部藤吉作歌
納所辨次郎作曲

第一章

天正年間 豐元公

廣島城を築きしが

福島淺野と世はかはり

王政復古の御代に過ひ

藩は廢れて縣となり

始めて市制は布かれり

第二章

千田貞睦 知事の時

經營修飾 六星霜

宇品港の成りしより

頼に海陸聯絡し

中國樞要地となりて

輸送は日々に増さる

第三章

日清役の策源地

大艦これに進められ

勝を千里に決したる

大本營の跡は此處

金雞の塔の影高く

千載不磨の記念なり

第四章

日露の役の其折も

第五師團の武夫は

同じく宇品を拔擢し

北清原野の勇戦に

たけび狂ひし荒鷲も

遂に翼を收めけり

第五章

嗚呼賑はしき廣島市

人口十有五萬人

家居は隣と重なりて

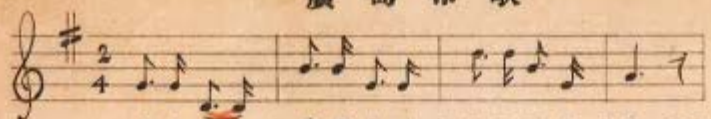
商工業者も數多し

中國無比の大都會

嗚呼賑はしき廣島市

第五師團ノミカ出征せしとき

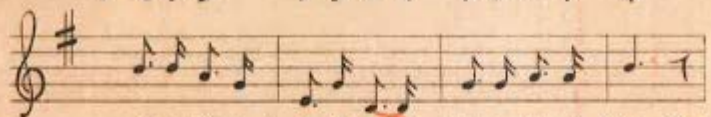
廣 島 市 歌



1. 1 5. 5 | 3. 3 1. 1 | 5. 5 3. 1 | 2. 0 |

1. テン レ ウ テンカン タルモト コ

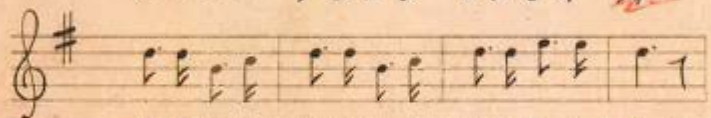
2. センダ タダアキ タロノト キ



3. 3 2. 1 | 6. 1 5. 5 | 1. 1 2. 2 | 3. 0 |

ヒロシマ ウ ウラー キブキレ ガ

ケイニイ ナンタン ロクセイ ナ



5. 5 3. 4 | 5. 5 3. 4 | 5. 5 6. 6 | 5. 0 |

フタレマ アサノト ヨハカハ リ

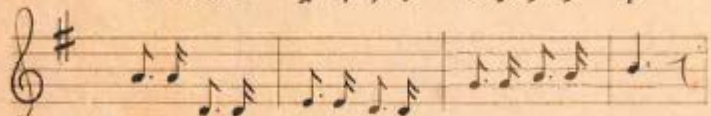
ウーラナ ミナトノ ナラシヨ リ



5. 5 6. 5 | 3. 3 1. 2 | 3. 3 2. 2 | 1. 0 |

ワウセイ フタコノ ミヨニア イ

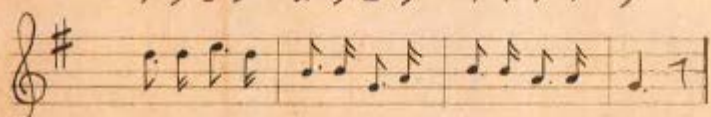
ミハカミ カイラタ レンラタ レ



2. 2 5. 5 | 6. 6 5. 5 | 1. 1 2. 2 | 3. 0 |

ハンバー ス タレタ ケントナ リ

ナウゴタ スウエウ テトナリ タ



5. 5 6. 5 | 3. 3 1. 2 | 3. 3 2. 2 | 1. 0 ||

ハロメタ シセイハ レカレケ リ

ミソウハ ヒビエー マサリケ リ

小 引

わのれ廣島市歌をものせんと志しゝは久しき昔なるを漸く業務の餘暇淺學をもちへりみす五章の歌様のものを綴り試みぬ讀者幸ひに教導添削の勞を垂れたまはらんことを昨年中國藝備紙上の公表に遇ひし後は大方諸彦より過分の稱賛を辱ふし特に學習院教授納所辨次郎氏より佳調の曲譜を贈與せられしは深く同氏に感謝する所なり

因に記す 毛利輝元公の廣島に來られしは天正十九年四月(西歷千五百九十一年五月二十三日より六月二十日頃今を去る參百貳拾年

明治四十五年一月

廣島市壺屋町

やたべ齒科専門醫院に於て

矢田部藤吉誌

明治四十五年二月九日印刷
明治四十五年二月十六日發行 定價三錢

作歌者兼
發行人 廣島市壺屋町四十九番地
矢田部藤吉

作曲者
納所辨次郎
東京市赤坂區丹後町拾壹番地

印刷人
廣島市壺屋町二十一番地
増田直吉

印刷所
廣島市壺屋町十二番地
増田兄弟活版所

